

ニュースポーツ体験・キッズステージ

日時 令和元年9月14日(土) 10:00～15:00

参加者数 5,200人(みやぎ・せんだい食の広場合む)

会場 仙台市勾当台公園「いこいのゾーン」

★ 行事概要

ニュースポーツやレクリエーションを通じて幅広い世代に楽しんでもらう。

📄 実施内容

◆キッズステージ

・ダンススポーツ ・カラーガード ・ヒップホップダンス
・レクダンス ・雀踊り ・キッズビクス ・女川体操 など

◆ニュースポーツ

・ラダーゲッター ・マンカラ ・けん玉、コマ ・バグゴ
・輪投げ ・開運お手玉ボード ・スラックライン

◆C 5 忍者ランド ◆ヒューストン



キッズステージ出演者一覧

- ・鶴ヶ丘児童センター カラーガード隊
- ・サンフィッシュ
- ・なないろクローバー
- ・おやこびくすサークル
- ・長命ヶ丘児童センター
- ・KABAKKO Dancersz (蒲町児童館)
- ・児童館合同チーム E+F
- ・SEIJU & ICHIKA
- ・桂♡すまいるガールズ (桂児童センター)
- ・ジャグエスト
- ・桜子すずめ隊
- ・東北高校アンサンブル

C 5 忍者ランド



ヒューストン



ラダーゲッター



参加者の声

- 子どもと一緒にいろいろな遊びを体験しました。
- 汗をかきながら何度も遊びました。
- レクリエーション大会は初めてでしたが、毎年、このような親子で楽しめる身近なイベントが開かれると嬉しいです。
- 忍者ランドは、とにかく楽しいの一言
- ステージ上の元気あふれるパフォーマンスに驚きました。

マンカラ



バグゴ



コマ



輪投げ



ディスクゲッター



開運お手玉ボード



感謝!!『あばいんツアー』3.11メモリアル小さなバス旅

日時 令和元年9月14日(土) 8:00～17:30

参加者数 42人

行程 仙台駅→女川町(シーパルピア女川見学)→東松島市(松島自然の家にて災害時おにぎりづくり体験&バーベキュー)→奥松島散策→石巻市(日和山公園)→仙台駅

★ 行事概要

東日本大震災から8年が過ぎ、全国の皆さんに支えられ復興に向けて前へ進んでいる感謝を込めて女川町、石巻市、そして奥松島を仙台からバスでご案内した。「あばいん」とは宮城県の方言で「一緒に行きましょう」という意味です。



🗣️ 参加者の声

- 今まで30回ほど全国大会に参加しましたが、これほどサービスやもてなしを受けたことはありません。心から感謝いたします。
- 被災の記憶は風化させてはいけないと思います。私が見たこと聞いたことを脳に刻みました。
- 単なる被災地ツアーではない、レク大会にふさわしい視点盛りだくさん。本当に準備ありがとうございました。



ニュースポーツ体験コーナー

日時 令和元年9月14日(土) 10:00～15:00

参加者数 115人

会場 岩沼市総合体育館(ビッグアリーナ)玄関前広場

🌟 行事概要

シニアも大人も子供も障がい者も。誰でも簡単にできて誰もが笑顔になれる。それがニュースポーツの一番の特徴です。普段は見慣れない用具や器具ですが、この機会にぜひ遊んでみてください。

シャフルボード



🗨️ 参加者の声

- 初めて見るし、聞いたこともなかったけど、とても面白かった。
- 奥の深いゲームですね。ちょっとハマりそうです。

🗨️ 参加者の声

- 孫よりも自分が夢中になってしまった。
- 弾んでバーの間をくぐり抜けてしまった時は大爆笑でした。

ラダーゲッター



バグゴ



🗨️ 参加者の声

- 投げて入れる。たったこれだけなのに面白い！
- 親子で簡単に楽しめて一緒に遊べるイベントはありがたいです。

閉会式

主催者あいさつ・大会報告



公益財団法人
日本レクリエーション協会
副理事長

丸山 正

第73回全国レクリエーション大会in宮城2019が無事終了しました。まず、皆様に現時点における参加者をお伝えします。参加者状況につきまして、14,000名でございます。これだけの方にお起こしただけのことに感謝申し上げます。

今大会は、「ありがとう 復興進む 伊達のまち。みんなのチカラ レクちから。」のスローガンにあるとおり、「復興」がテーマでした。

東日本大震災の発災から8年6か月、開会式では課程認定校である東北福祉大学サークル「まごのてくらぶ」の支援活動を振り返る講演がありましたし、研究フォーラムでは、これまでの支援活動で培ったノウハウを伝えるセッションが数多くありました。

また、津波による甚大な被害から復興する石巻市、東松島市、女川町等を巡る特別行事や、勾当台公園では、一般の市民の皆さんにも参加いただける「みんな笑顔、復興レクパーク」も開催されました。大会スローガンのとおり、復興する宮城県を、全国から集まった参加者の皆様に見ていただけたのではないかと思います。

この大会は、実に楽しい大会であったということが私の感想であります。開会式のアトラクションの雀踊り、女川港大漁獅子舞、合唱、仙台七夕踊りなど、すべてが若い情熱や地元の歴史、文化を見事に表現されていました。

さらに「交歓の夕べ」、これもまた大変楽しゅうございました。会場が一体となった生バンド演奏や東京五輪音頭、雀踊りの総踊り、正にレクリエーションならではの楽しさでございました。

もう一つ申し上げますと、ボランティアの方々、大変気持ちよかったですね。対応が大変素晴らしかったです。これもまた主催者としてありがたかったことでございます。

全体的に言いますと、私はこの大会は大成功に終わったということが実感でございます。裏方のボランティアの方はもちろんのこと、計画を立てていただきました宮城県レクリエーション協会の方々の御努力に感謝したいと思います。

同時に何よりも、全国から参加いただいてこの大会を盛り上げてくださった方々の御努力に心から敬意を表したいと思います。本当にありがとうございました。これをもって今回の大会は無事終了とさせていただきます。

引き続き来年は兵庫でございます。オリンピック・パラリンピックに続いて、またそのレガシーを次の年に開催されるワールドマスターズゲームスにつなげていく大会として、世界文化遺産「姫路城」のお膝下の姫路市を中心に開催しますが、また、楽しい大会になりそうでございます。来年はまた皆様で兵庫に行って、レクリエーション大会を楽しんでいただきたいと思っております。

多くの方に御参加いただき、本当に素晴らしい大会だったと思います。天気にも恵まれ、大きな事故もなかったということも、主催者としてはありがたいことでした。本当にありがとうございました。皆様に感謝を申し上げまして私の御挨拶にかえさせていただきます。

主催者・お礼のことば



特定非営利活動法人
宮城県レクリエーション協会
会長
熊谷 大

大会実行委員会を代表して、一言、お礼の言葉を申し上げます。

令和元年最初となりました本大会も、皆様の大きなお力を得て、更に天候にも恵まれ、間もなく終了の運びとなりました。

思い起こせば、平成29年5月の当協会の総会において、大会招致を決定して以来、日本レクリエーション協会と連動しながら、宮城県教育庁スポーツ健康課の皆様の子細に及ぶ御指導の下、「大会企画準備室」、「準備委員会」を経て、本年5月に「実行委員会」を設置し、先催県の北海道並びに高知県レクリエーション協会の皆様の御指導をいただきながら、本格的且つ最終的な準備を進めてまいりました。

しかしながら、理想と現実は程遠く、準備を重ねれば重ねるほど、様々な課題が山積し、大会開催にたどり着けるのかさえ、心配する時期もございましたが、関係者の皆様のひとかたならぬ御指導と御支援、励ましを賜り、無事に本日を迎えることができ、誠に感慨深いものがあります。

大会準備から開催までの時間を経て、日本のレクリエーション運動の歴史と未来を垣間見るとともに、人と人との繋がり、世代間の交流、関係団体間の連携の必要性をまさに痛感いたしました。

「人生百年時代」と言われ、さらなる健康寿命の延伸が課題となっている今日、レクリエーション運動の本質は、「みんな仲良く、元気で、いつまでも、楽しく生きる」という、ごく普通の「幸福感の追求」ではなからうかと、私は感じております。

「ありがとう 復興進む 伊達のまち。みんなのチカラ レクちから。」を大会スローガンに掲げた本大会が、参加者お一人お一人の心の元気づくり、今後の宮城県、ひいては日本の元気に繋がる細やかな1ページになれば幸いです。

結びになりますが、本大会開催に当たり、多大なる御指導と御支援を賜りました文部科学省、スポーツ庁、日本レクリエーション協会、宮城県、宮城県教育委員会をはじめとする関係者の皆様、多くのボランティアの皆様、そして県内外から御参加いただきました多くの皆様に重ねて感謝を申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。

皆様、本当にありがとうございました。

次期開催県よりごあいさつ



特定非営利活動法人
兵庫県レクリエーション協会
会長

吉井 宏一郎

兵庫県レクリエーション協会会長の吉井宏一郎です。

はじめに、「第73回全国レクリエーション大会in宮城2019」が天候にも恵まれ、大成功のうちに終了しますこと、心よりお祝い申し上げます。

また、これだけの全国大会を成功されるためには数年前から相当の準備を重ねてこられたものと、宮城県レクリエーション協会をはじめとする多くの関係者の皆様に改めて敬意を表したいと思います。

平成7年1月に地元兵庫県で発生した「阪神・淡路大震災」から早いもので約25年経過いたしました。ここ宮城県でも未曾有の大惨事となりました平成23年3月の「東日本大震災」から8年6か月が経過し、着実にまたしっかりと復興が進んでいる姿に、同じように辛い思いをした一人として深い感銘を覚えております。

「阪神・淡路大震災」が発生した当時、様々な場面において、レクリエーション活動をとおした支援活動を実施したことも思い起こされ、兵庫県と宮城県との御縁をより深く感じ取ることができました。

いよいよ来年は、11月13日から15日の3日間、日本初の世界文化遺産「姫路城」のお膝下である姫路市を中心に、「白鷺の地から広げよう！レクの楽しさ・交流・笑顔」をスローガンに、第74回全国レクリエーション大会を兵庫県で開催いたします。

宮城県の皆様には視察を快くお引き受けくださり大変お世話になりました。来年は、さらに素晴らしい大会にしたいと関係者一同心から願って準備を進めております。

皆様、来年は兵庫県でと元気にお会いしましょう。お待ちしております。

閉会宣言



特定非営利活動法人
宮城県レクリエーション協会
顧問

本多 弘子

皆様、こんにちは。宮城県レクリエーション協会顧問の本多でございます。

はじめに、「ありがとう 復興進む 伊達のまち。みんなの力 レクぢから。」を大会スローガンに掲げて開催した本大会に、全国各地から大勢の皆様方に御参加をいただきましたこと、大変嬉しく改めて感謝いたします。

また、大会開催に当たり、宮城県、宮城県教育委員会をはじめとする関係自治体の皆様から子細にいたる御指導と御支援を賜り、本当に助かりました。このような御指導と御支援がなければ、きっとこの大会は成功しなかったのではないかと考えております。

さらに、大会期間中、常に笑顔を絶やさずに、色々な場面で御活躍をいただきました課程認定校の学生並びに一般のボランティアの皆様方に心から感謝を申し上げますとともに、御寄付や御協賛を賜りました多くの企業や団体、個人の皆様にも深く感謝申し上げます。

併せて、この三日間というものの天候にも恵まれ、無事に大会終了の運びとなりますこと、大変感慨深いものがあります。

来年は、いよいよ兵庫県姫路市で第74回大会が開催されます。準備に当たる関係者の皆様におかれましては健康に御留意の上、宮城大会以上に素晴らしい大会にしてくださいよう宮城県関係者一同心から願っております。

結びになりますが、大会開催に際し、長い間支えていただきました関係者の皆様方に重ねてお礼を申し上げますとともに、来年11月に開催されます兵庫大会がさらに素晴らしい全国の参加者を魅了する大会となりますよう改めてお祈り申し上げ、「第73回全国レクリエーション大会in宮城」の一切を終了させていただきます。

皆様、ありがとうございました。

閉会式プログラム

日時 令和元年9月15日(日) 13:30～14:30(受付開始12:30)

会場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス61教室

司会 粕谷義昭(特定非営利活動法人宮城県レクリエーション協会 理事)

(敬称略)

閉会

主催者あいさつ・大会報告

公益財団法人日本レクリエーション協会

副理事長 丸山 正

大会を振り返って
スライドショー
お礼のこたば

第73回全国レクリエーション大会in宮城2019実行委員会

会長 熊谷 大

次期開催県よりごあいさつ
兵庫県PRタイム

特定非営利活動法人兵庫県レクリエーション協会

会長 吉井 宏一郎

閉会宣言

特定非営利活動法人宮城県レクリエーション協会

顧問 本多 弘子



会場入り口



会場入り口



司会



主催者あいさつ



お礼のこたば



次期開催県よりごあいさつ



閉会宣言



大会旗引き継ぎ



会場内風景



次期開催県(兵庫県)のPR



お見送り



Index

大会資料

協力者一覧……………p.86	事務局規定……………p.97
協賛者・寄付者一覧…………… p.87	大会役員／実行委員 ／運営委員……………p.98
大会開催基準要綱……………p.88	実行委員会事務局／ 専門部会 名簿……………p.99
大会開催要項……………p.90	参加者数一覧…………… p.100
実行委員会規約…………… p.92	全国レクリエーション 大会のあゆみ…………… p.102
運営委員会規定…………… p.95	編集後記…………… p.110
専門部会規定…………… p.96	

本大会のため ご協力をいただいたみなさま

特定非営利活動法人アイディアC体創協会 様	株式会社仙台大気堂 様
浅野 恵美 様	社会福祉法人仙台市手をつなぐ育成会 様
阿部建設株式会社 様	仙台市レクリエーション協会 様
泉区学区体育振興会 様	仙台大学 様
泉区スポーツ協会 様	仙台トヨペット株式会社 様
泉区スポーツ推進委員会 様	株式会社仙台放送エンタープライズ 様
泉 森男 様	株式会社タカラ 様
猪又建業 様	田名網 典子 様
岩山 伸次 様	田名網 優 様
株式会社ウェルネス伯養軒	チャコット株式会社仙台店 様
氏家 道子 様	ちんどんみやび組 様
医療法人おおさか歯科医院 様	株式会社東北第一興商 様
小野目 博昭 様	株式会社東北協立 様
株式会社菓匠三全 様	東北福祉大学 様
株式会社割烹くまがい 様	東北文化学園大学 様
河北建設株式会社 様	仲野 隆士 様
カメイ株式会社 様	西巻 四郎 様
京王観光株式会社 様	ネットヨタ仙台株式会社 様
櫛産業株式会社 様	株式会社白寿殿 様
広研印刷株式会社 様	東日本復興芝生生産事業株式会社
高知県レクリエーション協会 様	(株式会社オオツボスポーツ) 様
株式会社ごんきや 様	ヒューストン日本安全吹矢協会 様
今野 勝夫 様	特定非営利活動法人
サークル KAREN 様	兵庫県レクリエーション協会 様
株式会社斎テント 様	平賀 ノブ 様
公益財団法人笹川スポーツ財団 様	特定非営利活動法人
佐々木 文子 様	福島県レクリエーション協会 様
佐藤 雄司 様	株式会社 FIT-R 健幸工房 様
佐藤 真利子 様	有限会社ブルースインターフェイス 様
株式会社ジェイアイシー南東北 様	星 正男 様
社会福祉法人自生会 様	本多 弘子 様
(有)時代屋動物病院 様	マルニ食品株式会社 様
指導者養成課程認定校研究連絡会議 様	マンダリンインターナショナル株式会社 様
真栄工芸株式会社 様	宮城県クッブ協会 様
学校法人菅原学園仙台保健福祉専門学校 様	宮城交通株式会社 様
全国福祉レクリエーション・ネットワーク 様	株式会社ムラタック 様
全国レクリエーション・コーディネーター・ネットワーク 様	メットライフ生命保険株式会社二階堂和枝 様
仙台牛タン居酒屋集合郎 様	元湯鷹泉閣岩松旅館 様
仙台ターミナルビル株式会社 様	

式典用扇作成及び準備やPR活動等で2年間ご協力をいただいたみなさま

菊池 厚子 様	富田 美智子 様	田中 清見 様
佐藤 節子 様	栗村 光子 様	藤村 英子 様

全国レクリエーション大会開催基準要綱

公益財団法人 日本レクリエーション協会

昭和53年4月1日制定 平成4年3月25日改訂

61年11月14日改訂 14年5月22日改訂

63年4月1日改訂 25年6月13日改訂

28年8月11日改訂

1. 趣 旨

この要綱は、全国レクリエーション大会（以下「大会」という。）を開催・運営するための基本事項を定める。

2. 目 的

大会は、国民一人ひとりの幸福で豊かな生活の形成を目標としたレクリエーション運動の推進の一環として、生涯を通して楽しみ、喜びを味わえるレクリエーション活動を体験し、全国からの参加者と開催地住民との交流を図り、さらに全国各地及び各専門領域におけるレクリエーションに関する研究、実践の成果を結集することにより、今後の生涯スポーツ・生涯学習の振興とレクリエーション運動の活性化に資することを目的とする。

3. 開催回数

大会は、毎年1回開催し、昭和22年に開催された大会を第1回として、以降年毎に順次回数を定める。

4. 主催者

大会の主催者は、次のとおりとする。なお、その他必要と思われる場合は付加することができる。

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| (1) (公財) 日本レクリエーション協会 | (6) 開催地政令指定都市教育委員会 |
| (2) 開催地都道府県 | (7) 開催地政令指定都市レクリエーション協会 |
| (3) 開催地都道府県教育委員会 | (8) 開催地市町村 |
| (4) 開催地都道府県レクリエーション協会 | (9) 開催地市町村教育委員会 |
| (5) 開催地政令指定都市 | (10) 開催地市町村レクリエーション協会 |

※種目別全国交流大会については、(公財) 日本レクリエーション協会加盟種目団体を含めたものとする。

5. 主管団体

大会の主管団体は、大会実行委員会とする。

6. 共 催

大会の共催機関・団体は、スポーツ庁等とする。

7. 後 援

大会の後援機関・団体は、総務省等とする。

8. 協 力

大会の協力機関・団体は、(公財) 日本レクリエーション協会加盟団体、関係団体等とする。

9. 協 賛

大会の協賛機関・団体は、大会の趣旨に賛同し、協力する機関・団体等とする。

10. 開催地

大会の開催地は、開催を希望する都道府県又は政令指定都市のうちから、(公財)日本レクリエーション協会が決定する。

11. 開催期間

大会の開催期間は、3日間とする。

12. 財 源

大会の経費は、次のものをもって賄うものとする。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| (1) 国庫補助金 | (4) 開催地レクリエーション協会負担金 |
| (2) 開催地地方自治体補助金 | (5) 参加料 |
| (3) (公財)日本レクリエーション協会負担金 | (6) 広告料、受託料、助成金、協賛金、寄付金等 |

13. プログラム

大会プログラムは、原則として次のとおりとする。なお、細部については主催者が協議・検討し決定する。

(1) 開会式

レクリエーション運動の成果を確認し、推進の方向を共有する場とする。

功労者・優良団体の表彰、歓迎アトラクション及びすぐれた実践をした組織・個人等の発表のほか、レクリエーションに関する諸問題について、シンポジウムや講演会を行うこともできる。

(2) 交歓の夕べ

人と人とのネットワークをつくる機会と位置づけ、関係者が楽しく交流できる場とする。

(3) 研究フォーラム

個人の生活におけるさまざまな楽しみの仕方、その提供の方法・仕組み等について、全国から関係者がつどい、相互の発表・討議によって、各種活動のノウハウを蓄積し、全国に発信する場とする。

(4) 種目別全国交流大会

(公財)日本レクリエーション協会の加盟種目団体の種目の愛好者が集まり、勝敗にこだわらず、楽しみながら交流を図る場とする。また、日頃の活動の成果発表の場とし、各種目の普及発展による生涯スポーツの振興をめざす。

(5) 特別行事 (フェスティバル)

開催地住民を対象にさまざまなニュースポーツを体験し、スポーツ・レクリエーション活動に関する用具・設備および関連の図書・資料の展示コーナー、相談コーナー等の場とするほか、地元物産フェア展等を開き、参加者個人が楽しみを見つける場、体験できる場とする。また、全国各地からの参加者との交流の場としても位置づける。

(6) 協賛行事、特別協賛行事等

関係機関・団体が大会の趣旨に賛同して自主的に開催する協賛行事、種目別全国交流大会に参加する種目以外のレクリエーション種目等について、主催者が関係機関・団体に依頼して開催する特別協賛行事等を開催することができる。

(7) 閉会式

大会をふりかえり、次年度につながるリレーステージの場とする。

14. 補 則

この要綱に定めるもののほか、大会の開催及び運営に関し必要な事項は、大会実行委員会が定める。